

## 京滋コンクリート診断士会 第10回通常総会 議事録

日時：平成30年10月26日（金）午後13時30分～14時00分

会場：京都大学 楽友会館 講堂

開会宣言：進行役 岸川

定足数確認：出席22名 委任状による出席34名 計56名（会員総数89名の63%）

以上から会則第15条により本総会の成立を確認

開会挨拶：会長 高井

挨拶の内容を記す。

- ・来賓、参加者への謝辞
- ・過去10年を振り返って

※2008年8月に京都テルサで第1回設立総会を開催、約40名の参加。

※長谷川前会長、山口副会長と3人が発起人として立ち上げた。

※これからの10年は、より地域に根付いたインフラのメンテナンスを柱に活動を目標と考えている。

来賓紹介（順不同）：進行役

国土交通省 近畿地方整備局 京都国道事務所 所長 田中 哲也 様

国土交通省 近畿地方整備局 滋賀国道事務所 副所長 石鍋 一文 様

京都府 建設交通部 指導検査課 担当課長 林 龍夫 様

滋賀県 土木交通部 監理課 技術管理室 主査 田井中 貴文 様

京都市 建設局建設企画部 監理検査課 課長 長尾 由起夫 様

代理 検査第一係長 小西 満 様

来賓代表祝辞：

国土交通省 近畿地方整備局 京都国道事務所 所長 田中 哲也 様

ご祝辞の内容を記す。

- ・国の発展に社会資本は重要であり、コンクリートは社会資本を支えている。
- ・高度成長期にコンクリートの研究が盛んに行われたのは国の発展に必要であった。
- ・コンクリートは生活を支え、災害から私たちを守ってくれる。
- ・コンクリートは頑丈で強いので適切に管理すれば長期にわたり長持ちする。
- ・高度経済成長期に作られた構造物の経年劣化が進んでいる。
- ・高齢化した社会資本をいかに後生に伝えて行くか。
- ・コンクリート診断士の役割が重要、新しい技術の取り入れ。
- ・人材の面・財源の面の課題。

- ・後生が安全・安心にそして豊に暮らせる国作り。

国土交通省 近畿地方整備局 滋賀国道事務所 副所長 石鍋 一文 様

ご祝辞の内容を記す

- ・インフラ整備に伴い多くのコンクリート構造物が建造された。
- ・10年後には建設後60年以上を経過する構造物が50%を超える。
- ・道路の老朽化対策、笹子トンネルの事故により5年に1度の近接目視点検が実施される。
- ・予防保全を前提とした持続可能なメンテナンスの実現。

議長選出：会則第10条により会長を議長に選出

#### 審議事項

第1号議案	平成29年度事業報告	(岸川)	→	承認
第2号議案	平成29年度会計報告	(岸川)	→	承認
	平成29年度会計監査報告	(高木)	→	承認
第3号議案	平成30年度事業計画(案)	(衣川)	→	承認
第4号議案	平成30年度収支予算(案)	(衣川)	→	承認
第5号議案	本会会則の改定	(衣川)	→	承認
第6号議案	本会役員の改選	(高井)	→	承認

閉会：審議事項すべて承認され、議長の宣言により閉会。

記録：辻